

大和の光

4月号

《発行所》

大和教団
仙台市青葉区錦町2-4-24
大和教団本庁
電話(代)022-261-2525番
振替 仙台 02220-3-45512
発行人 大和教団 定価50円



神紋
八咫鏡と太陽を
かたどったもの
で、国家の隆昌
と世界の共存共
栄を意味してお
ります。

万霊慰霊祭並水兎地蔵祭 開祖様二十二年祭



教主様随想記

大和神隨らの道

昭和五十九年に開祖様の居宅を兼ねた迎賓館が竣工して、一年後の程か。開祖様への所用の為何うと、神前にてお祈りをされておられた。引き返そうとしたところ、突然「その場に座すがよい。汝のことはわしが導く。神に仕えよ。」との霊言が下された。

当時私は、事業部に籍をおいて神事には全く心がなかったのであるから戸惑うばかりであった。私は「ハイ」とも何とも回答が出来なかったのではとの記憶がある。

その後、教団内情に大きな変化があり、何故か私が教祖様の後を為すことの動きとなった。

大好きであった酒やタバコも、何れやめねばならないものであれば、今日、只今より断つとの心に誘われた不思議をみるものであった。

私を知る友人、知人は本当にやめたのかと語り合っていたようだ。信じられないとして。

私があれだけ酒を飲み、吸っていたタバコを何の苦しみもなくピタリとやめられたことの裏には、神隨らの道に私を導かんとする神々が、そして、祖父敬一郎之命が導かれていたものと覺るところであった。

開祖様は私に、爺さんは運命学に精通し、祈禱の大きな力をも身に修めた人であると。修行道中にて、長野山梨では天狗さんと称えられていたという。皇室関係者の方の多くから祈禱を願われていたとも。その御礼として菊の御紋入りの割笏とその他一点の記念の品、菊の御紋入りの煙草を賜ったとお話し下された。そして、開祖様は割笏を預かった

として、その割笏を私にお授け下された。このことも何故にかと思うばかりであった。

運命学を勉強するかと、尋ねられ「ハイ」と素直に返していた。開祖様は立上りて小さな葉を持参された。東京易占学校とあった。旧局番ながら掛けてみると女性の方が出られ、入学したい旨話し、早速に上京、週に一度通うようになった。

交通費、宿泊費も相応にかかり、学校の授業だけではなく個人的にも

大望

教主様

当時、社団法人日本易学連合会理事長でもあられた学校長さんや、講師をされていた電話に出て下された女性の先生のマンションにも通い学ばせて頂いた。社団法人日本易学連合会の運営もあり、女性講師は後、女性初の会長となり、今も親しくおつき合いをさせて頂いている。

神社にも再々御来山、大國主大神御神像大前に灯籠一基のご奉納を頂いている。

その先生が、私を占断して「保積さんは将来、立派な位につくお方です。その運を持たれている」と話された。そして、私が教団の教統継承をすると、やはりそうなられたと自らの占断に誤りの無かったことを告

げられた。

その後、開祖様に、「爺さんは一生に一度は出雲大社の神迎え祭より神等去出祭までの神祭に参列するがよい。」と語られていた。私は行けなかったが、あなたは行くかと。この時も私は何の躊躇もなく素直に「ハイ」と申し上った。

昭和六十三年十月より一カ月間、歌手の竹内まりやさんの生家でもある竹野屋さんという大社門前の旅館に逗留し、大社の方にお願ひし、一カ月間の滝行をもさせて頂きながら、神迎え祭、神在祭、神々をお送りする神等去出祭まで参列させて頂いた。昭和天皇様がご不例にあられた時でもあり、神職の方と滝行をお仕えさせて頂き、祈り申し上げた。

神等去出祭の儀式後、御社を退出される国造様(宮司でもあられる)より、あなたが仙台の保積さんですか、ご苦労様ですと親しくお声を掛けて頂いた。勿体なきことであった。大変有り難い体験をさせて頂いた。

翌年の平成元年三月には東京易占学校より家相学、姓名学、手相学、気学、易経学の奥伝を許可された。

同年五月八日に奈良県吉野の金峯山修験本宗護摩加行の修行を許され入行することとなった。

当時、管長様であられた五條順教猊下に願ってお許しを頂きながら、毎年のお参りの都度、作法を伝授され、お経を唱えることが出来ないとい修行になりませんか、このテープを聞いて勉強して下さい、経本と共に頂いた。九字の斬り方や基本作法を伝授され、独学独修なし三年を経しての入行であった。

前日の五月七日に寺務所に伺うと「お一人ですか。教団の人は誰も来ないのですか。身内の方も。」と、怪訝なお顔をなされていた。

開祖様二十二年祭 万霊慰霊祭 水児地蔵祭



斎主教主様により祝詞が奏上された

御明りが御神前に供えられ、祭場が煌めく灯の光に包まれた。開祖様御教拝戴之儀が行われ、尊き大和の御教えの数々を拝聴申し上げた。引き続き、斎主教主様により開祖様二十二年祭詞を奏上。次に万霊水児慰霊祭詞を祈念申し上げ、綾瓊神歌、大和帰神祝詞が奉誦された。

斎主玉串奉奠、参列者玉串奉奠を修め、昇霊之儀を以て閉祭された。教主様より御親教を賜り儀式は結ばれた。続いて一同は地藏神庭へと移動し、斎主嗣親様のもと御清之神儀を執行申し上げた。

三月二十三日午前十時より大國神社祈禱殿において、開祖様二十二年祭、並びに万霊水児慰霊祭が、斎主教主様のもと厳かに斎行された。

祭壇には海川山野の種々の御饗物が宇豆高く献て奉られ、梵天、浄霊符、帰神串、御灯明にて祭場が整えられた。

始めに霊簿奉安之儀が行われ、御霊の御名が奉書された霊簿を清明美装に謹製された安鎮御箱に納め、祭壇中央に奉安を申し上げた。

修祓の後、斎主教主様祈念降霊之儀が厳かに執り行われた。次に参列者一人ひとりの手により御霊様への



参列者により御霊達へ真心の献灯が捧げられた

また祭員と信奉者の手により浄霊符を小川の浄水をもつての水慰霊神事が執り行われた。

此度の慰霊供養を受けられた御霊等は、幽冥大神、大和地藏尊の尊き誘いとお救いを受け給ひて浄霊帰神へと導かれた。

教主様御親教



斎主教主様より御親教を賜る

今日は開祖様の二十二年祭です。平成十五年三月二十五日に神上がりなされました。

開祖（おや）様が私たちに残してくれた大きな宝の一つは「生きていく時は笑顔で、亡くなる時は少年少女のように若やいで神様のところへ行くですよ」という御教えです。

私はある日、開祖様が付けていた酸素マスクを外すか否かの判断をするようにと主治医から言われました。主治医は、何時どうなってもおかしくないですよ。」と私に申しました。私は「何だろうと。今、こうして生きていくのではないか」と。思いながらこの酸素マスクを外したら終わりという、厳しい決断を迫られたわけです。本当に辛い決断でしたが、

「外して下さい。」と申しました。毎年、皆さん方こうして開祖様を偲んでおります。この世で亡くなっても、御霊は幽世、神の世で生きていくということです。神様の姿は見えます。開祖様もこの世からは身罷りましたが、亡くなられたわけではありません。神霊界では生き続けておられます。大和には身罷れば魂は天に帰り、この身は地に帰るという尊い教えがあります。

この御山で永代に慰霊として皆さんの魂をお祀り致します。新たに建立申し上げた大和帰神墓では皆さんの亡骸を清めていくのです。

この大地に清められて、また新たな生命の資料となるのです。この地球が諸々全てを生み出す力なのです。高い山も海から生まれました。エベレストの山の上からも貝の化石が見つかるということです。皆、始めは海に居て、そして地表に顕れました。この地球は七割が水なのです。

天津神は昼の世界を司るがよしと天照大神神にその仕事を命じました。月山に祀る月読尊には夜の世界を司れと。

此の地球を神様は大海原と云いました。素盞鳴尊に、あなた方がこの地球を司りなさいと申されたのです。全ての生命を生むのがこの地球です。私達はお母さんのお腹に十月十日居て、此の世に産み出されました。羊水の中で呼吸します。波が寄せては返す、そんな穏やかな波の音と同じとされるのが羊水です。この身体は地球の力で生かされております。この体という器に天照大神神の命が差し込まれるわけです。そうして生命を頂くのです。大和帰神墓は、再生復活の力をもつものです。人は万物の霊長と申します。一番優れた生命を頂いており、太陽の神光を天津大霊（あまつおおひ）と申します。

教主様随想記

大和神隨らの道(続)

それは成満の後に知ることになるが、修行は生き死にを賭けしものにて、無事の成満を願いて、教会の方身内の方がお見送りするという事を知った。

修行の厳しき掟のあることを学ばせ頂いた。そして私一人の為の修行との管長猊下のご配慮を賜りしに手を合すばかりであった。

柳澤真悟先生、若林円教先生が指導されるという。柳澤先生は戦後初めて大峰山の一千日回峰行を行満されし大阿闍梨であられる。一年で山をかけることの出来る百日間程お山かけをするとの荒行で十年間の長丁場の厳しい行であることを知った。

最初に円教先生から一日の作務、最初の在り方を指導して頂いた。その後は一人行にて、為すべき作務、修行は全て自分一人でやらねばならないこと、手助け下さる人は誰もなし、共に行ずる人もなしと。これも初めての経験となるものであった。

当初は四時前に起きればの話であったが、いざ始めると、潔斎場で身を清め、道路下の井戸に下り行きてご佛前に供える御水を汲み、護摩道場の仏前に供え、定められた次第の修行をなす。その後、朝食を頂き、行で用いる護摩木を割る。昼食はなしでの作務、定められた回数、護摩修行をお仕えし一日を終る。後、夕食を頂き、翌日に備えての準備をする。

定められた作務が諸々あり時間が足らなくなると、睡眠時間は次第に短くなり三時、二時、一時起床となっていた。

私が夕食後の作務で一番難儀したのが、日中割った護摩木を定められ

た本数に紙綴りで巻く作業であった。私はこれまで紙綴りを作ったこともなく、綴り方が全くうまく出来ずにボロボロになってしまいうごんぼう巻にて、苛つくばかりであった。次第に睡眠時間が無くなり、これで体がつかんと危惧するものであった。

そんな折、父親が夢枕に立ち、小生時代の頃に、父親が象牙かのパイプを紙綴りをもって掃除する姿が見え、その紙綴りを親指と人差し指で器用に作る姿を見せられた。私は飛び起きて父のなしていた紙綴りの作りを真似し、綴ってみるといとも簡単に綺麗に綴ることが出来るようになり、これで三十分は長く眠れると、心より父に手を合わせ拝んだ。

幽冥界より父親が私の難儀をしてる姿をみて、助けるべく手をのべ下されたものと、涙こぼるるを禁じ得ずであった。

私は一人ではない。父を始め敬一郎爺さんも陰乍らみちびいて下されているを信念すものとなった。

また、私の患いし腰も、木株に座して護摩木を割っていると腰が痛み出し、立ち上がるのが非常に難儀となっていた。この状態で五体投地百回できるかと。その作法時に不思議なる力をもって、私は別人の如く健康者以上の速さにて伏しては立ち立ちては伏すを繰り返していた。腰の痛みを案じていたことが嘘の如き状であった。

我れの修行を助けんとされる大神様や御霊神の御陰としか云いようがないものであった。

こうして目に見えぬ神霊の存在を如実に私に覚らしめるべく的事象を拝すものともなった。

令和七年三月十三日

教主秀胤

立教八十年に向けて大和の御教えを天地に満たしましょう

自身が清められれば、その身体には尊い天津大霊が差し込みます。死んでから生きる。生まれ変わる新たな命の身体をつくるということ。です。尊い、尊い命です。

今日は皆さんと大和神詞をお祈りしました。自分の体を清め、供養することが御霊を供養することになる。開祖様は説かれました。

神拝詞の百六頁に「大和神祝詞の奉唱は 我に真理の自覚を催告すると共に 祖霊諸魂にも聞こえ迷えるも治まらざるもの この言霊を受け納めよ 万象は神の御意の表現にして 人の言葉は神の御意を告げ萬物に通じ 遠き高山の涯でも深海の底も届かざる事なく 過去も未来も心を込めし言霊は遠近の差別なし」と説かれております

「言葉ほど恐ろしいものはない、言葉ほど尊いものはない」とも説きます。祈りは、その言葉を表します。自分に真理を目覚めさせてくれるのです。



地蔵広場小川にて水慰霊祈念を申し上げた

地球から生まれた身体は、太陽から命を頂いております。陰と陽。太陽と地球、月の力で、此の地球上で育まれております。祖霊諸魂や万物の御霊にも届きます。それを自覚して拝むことです。この世のありとあ

らゆる形あるもの、一つひとつも万象です。言葉は万物に通じます。六十兆の細胞にもちゃんと通じます。色々の御霊にも、全てにです。宇宙の果てまでも響きます。言葉は届くのです。

私たちは天津大霊を頂きました。太陽の光が宿ります。太陽も月、地球も全てこの体の中に力を頂いております。自分の命、体、力を大切に使わねばなりません。遠い、遠い先祖が神様です。感謝をするなら、少しでも自分がしっかりとした立派な人格を持つことです。親も先祖も喜びます。

喜怒哀楽、悲しみ、全て心で感じます。正邪曲直美醜といえます。正しい、よこしま、曲がっているか、真直ぐか、美しい、醜いこと、全て心で感じます。

昔の親は子供を立派に教育しました。残念ながら今はそれが希薄となりました。日本人の魂ですら廃れ、恐ろしい世の中になって参りました。そのことを神様ははなからご存知だからこそ、大和の大御名でこの世を清めなせ」と申されました。

大和は調和の世界です。その法則を私たちに教えているのが、太陽と地球、月の働きです。私たちの命は太陽系宇宙とつながっております。そういう神様も私たち大和は御祭神としてお祀りしています。

天之御中主大神から陰と陽に分かれていくのです。それを全て頂いております。我々の祈りは、神々に届くという祈り詞なのです。

祈りと感謝と奉仕の生活を実践することが、大和の信仰者の義務です。世の中はますます悪くなります。霊界もますます穢れてくるという、恐ろしい方向に行くということ。自然災害も半分は人工災害だと私は思っております。地球が温かくな

り皆、変わっていききます。昔から天候不順と云われてきましたが、もはや地球が酷い状況になっております。その中で私たちは生きていかざるを得ません。

ウクライナにロシアが侵攻して、自分のものにしてしまおう。日本も終戦間際にロシアに侵攻され北方四島を奪われました。そういう心を持っている人達なのです。自分さえよければという獣です。欧米列強国、人のものを奪ってきた国々です。それが今の世界を治めているのです。

大和は大調和と説いております。バランスが良くないと破壊します。家庭も真中の力が無くなり子供等が勝手なことをしているから駄目なのです。昔は爺さん婆さんの力があつて、ひとこと言えば黙って順つたものです。

お互いに尊敬し合い理解し合うことによつて、家族の営みが成り立つわけです。開祖様の今日の御教えでも、「家庭が駄目になったら世の中も荒れるのですよ。」ということをお申されました。大和は大きな調和を唱えていく教えなのです。

祈りの心というものを、魂を清めていかないと、後々苦勞しますということ。拝んでもらつて救われた「だけ」では、自分の魂、身体は清まりません。皆さんの心が穏やかになるよう、自らがつくり上げていかないとなりません。自ら適正な食べ物と頂かないと健康にはなりません。心も神様の力を借りて、穏やかな心をつくらねばなりません。その時だけの神様の御利益だけでは皆さんがあの世に行ったときには苦勞をします。

どうか自分を大切になさつて、信仰を高めて、此の世もあの世も生き通し幸せになれるという大和の信仰を正しく行つて欲しいと願います。

東日本大震災十四周年 犠牲者追悼慰霊祭並復興祈念祭

開祖様は、信仰は信仰、生活は生活、ではないと。生活に信仰を上手に取り入れていくのです。殊更のものではありません。祈りと感謝と奉仕の生活を通して神様にお仕えることなのです。



斎主平松事務総長による祝詞奏上

未曾有の被害をもたらした東日本大震災より十四年の時を経た三月十一日午前十時三十分、大和神光殿において、斎主平松神明事務総長のもと東日本大震災十四周年追悼慰霊祭並復興祈念祭が厳粛に執行された。

海川山野の神饌が献供され、斎場に犠牲となられた御霊をお迎え申し上げ、幽冥主宰大神様の誘いとお救いを頂きて慰霊と復興への祈りが捧げられた。

斎主玉串拝礼の後、参列者それぞれが真心を込めて復興を祈り、玉串を奉奠申し上げて御霊の安穩を祈った。

祭儀後、平松事務総

長は、「祝詞を上げていて強い御霊の想いを感じました。手足が冷たくしびれて、まるで水中のようでした。御霊達を慰めること、慰霊というのは力がなくては出来ません。教主様の祈りの大きな力というものに、私たちも稽古をしてついでいけるようにならねばなりません。誠に不思議な体験でした。

私たちは、日々の祈りの中でも震災犠牲者を慰霊して、また行方不明者が帰って来られるようにと祈ることです。今日のお祭りをつくづくと感じさせて頂きました。

大船渡市で起きた山林火災を思うと、震災を乗り越えてきて、今度は火災というのは何故なのかと思ひますが、これは神様のみ知り得ることとで、人には計り知れないこととで、それを受け入れる心が有るか無いかで、その後の人生が大きく変わってきます。想定外のことは起き得るものです。私たちは不幸や災いの中に生きています。それを如何に除けて生きるかです。それには信仰しかありません。神様に守ってもらい、導いて頂いて毎日の生活を暮らしていければと願っております。

感謝をすることによって自分自身の力は増していきます。感謝の力、笑顔の力です。開祖様、教主様の生き様に少しでも近づくと出来まます様、日々稽古をして頂ければと存じます。本日はご苦勞様でした。」とのおことばを述べられた。

引き続き、被災地の復興と更なる発展を乞ひ祈り奉るものである。

立正佼成会仙台教会長 大國神社表敬参拝

三月十日午前十時半、立正佼成会仙台教会の岩間由記子教会長が、大國神社を表敬参拝された。

本教からは副親様と平松千明事務総長がお迎え申し上げ、先ず御本宮にて正式参拝が修められ、玉串奉奠が行われた。



祈禱殿特別室にて暫し和やかに交流が深められた

人生儀礼
厄祓
車のお祓いは
大國神社
ご祈禱は随時
お申し受け致します
022-394-2720



斎主嗣親様のもと祭儀は厳肅に斎行された

神柵屋敷神並御位稱號神 感謝祈念祭

三月二日午前十時より大國神社祈禱殿において、斎主嗣親様のもと神柵屋敷神感謝祈念祭、並びに御位稱號神感謝祈念祭が斎行された。

本祭儀は、信奉者各位のご家庭に奉斎されし神々様、屋敷に祀られし、明神様・井戸神様・釜神様・水神様・龍神様、諸仏等を大國神社の大前に神招ぎ迎え奉りて、年毎に神恩感謝の大御祭を斎行申し上げる感謝の御祭りである。

大前には御神霊への感謝の御饗物が献て奉られ、儀式が執行された。修祓之儀の後、降神之儀がなされ、感謝の祝詞が厳かに奏上された。斎主と祭員により奉斎御神名が言上され、御霊神をお称え申し上げた。斎主玉串拝礼、参列者玉串拝礼の後、昇神之儀を以って祭儀は滞りなく申し修められた。



御本宮廣前にて車輛が一齐に祓い清められた



御本宮にて教信奉者皆様の交通安全が祈念された

交通安全祈願祭

三月二日、神柵屋敷神感謝祈念祭、並びに御位稱號神感謝祈念祭に引き続き、午前十一時より斎主熊川知長祭儀部次長のもと、交通事故の災い無く尊い生命が護られますことをご祈念申し上げる、交通安全祈願祭が御本殿を祭場に斎行された。

大前にて祈願者読み上げが行われ、



大和神光殿にて神光龍神様への感謝の祈念がなされた

神光龍神祭 六十八年祭

三月五日、神光龍神祭年祭が斎主畠山真由美教務部長により斎行された。当日は真冬の寒さに見舞われ、仙台市内においても未明から大雪となったが、心篤き信奉者とともに感謝の祈りが捧げられた。修祓のあと、親神拝詞、祝詞奏上、祈願が言上げられ、大祓詞奉唱、金幣拝戴、玉串

車の安全並びに身の安全がご祈念された。
折しも道路及び地下配管橋梁等、公共施設の老朽化に伴う維持管理が大きな社会問題として顕されている。幾ら注意を払っていても何時、何が起るかわからない昨今であるからこそ、神々の御力を乞い願うものである。

儀式後、御本宮大前に整然と並べられた車両を、一台一台祓い清め、大神様の御加護を賜わり、一年間の交通安全を祈念申し上げた。

尚、今年も四百台の車と二百人余のご祈願を申し上げた。

拝礼をもって感謝の御祭は修められた。儀式後、畠山真由美教務部長より、「三月五日は、神光龍神様が、大和に結ばれている信者さんを守るために大和の守護神としてこの夫婦(めおと)の松の木にお籠りになられた日です。」

神光龍神様は、大和教団の本部があるこの土地を開祖様に授けて下された神様でもあります。

開教神となられる大國主大神様が、**「私の鎮まりし土地はここである」と**申された土地を守り、開祖様にお授け下されたからこそ、大和教団が生まれ、この場所が本部となりました。神様に助けてもらったり、願い事が叶ったりしたときは、その感謝の思いを一生忘れずに、自分の御守として、尚一層神様を信じて、奉仕をさせて頂くのが、私たち信仰者なのです。そうして、感謝の思いを忘れずに神様にお祈りするからこそ、神様は私たちに更に御力を授けて下されます。皆様には神様の御力、尊さ有難さを、そして開祖様、教主様の神通力の尊さ、有難さを多くの人にお話をされて、神様に縋れば絶対に救われることをしっかりと伝えて、人を導く奉仕に努めて頂きたいと願っております。

毎月、大國神社では、準教師育成者勉強会と大和交流会が開催されており、皆さんも是非とも参加なされ、大和の御教えを学び、ご家族や友人知人、小さい子供さんも、どなたでも大和交流会に導いてください。皆さんには沢山の徳を積んで幸せになつて頂きたいと思ひます。そして、みんなで世の中を明るく良くしていきたいと思ひます。

信者さん同士も、親睦を深めて参りましょう。」とのご教話を頂き、教主様より賜りしお弁当を頂き、和やかに直会をもって修祭となった。

相澤光哉先生を偲びて心からの感謝の祈りをお捧げ申します



相澤光哉先生
三月七日午前十時、仙台市太白区向山の虚空蔵山大満寺において、故相澤光哉先生の本葬がしめやかに斎行され、本教よりも教主様、教母様を始め関係者一同が参列し、心からの感謝と、追悼のお祈りをお捧げ申し上げました。

仙台市議会議員を三期、宮城県議会議員として七期、その間宮城県議会議長を二度務められ、本教団の顧問として、永年に亘り本教護持伸展のためにご貢献を下されました相澤光哉様が、二月二十八日、八十六歳の生涯をもって帰幽なされました。謹んでご生前のご功績を偲び、御霊の安らかならむことを、お祈り申し上げます。

報 計

品川雅之教師

本教団の神事部次長として、永年に亘り本教護持伸展のためにご貢献を下されました品川雅之教師が三月二十二日、六十七歳の生涯をもって帰幽なされました。謹んでご生前のご功績を偲び、御霊の安らかならむことをお祈り申し上げます。

5月行事予定表

5月1日	朔日火祥神事	6月20日	御神像境内社御清之儀 還幸祭
5月5日	神光龍神祭	6月21日	禊祭前日祭
5月10日	準教師・育成者勉強会	6月22日	禊祭本祭
5月11日	親神感謝祭・祖霊万霊祭	6月25日	開祖祭
5月15日	月次祭・五講祭	6月28日	夏越の大祓・鎮火祭
5月17日	みそぎ大行(18)		
5月25日	開祖祭	6月29日	金剛威王大権現年祭
5月28日	六根修養会		
5月31日	大和交流会	6月30日	夏越の大祓

6月行事予定表

6月1日	朔日火祥神事		
6月5日	神光龍神祭		
6月8日	教主様御誕生奉告祭		
6月11日	親神感謝祭・祖霊万霊祭		
6月15日	月次祭・五講祭		
	準教師・育成者勉強会		



かたくり祭
4/5～4下旬